

家庭菜園で見られる蟲たち

〔アリマキ〕

アリマキはアブラムシとも呼ばれ、植物の汁液を吸い生育阻害を引き起こしたりウイルス病を媒介する害虫です。また、排泄物や幼虫の脱皮殻にはカビが生え、いわゆる「すす病」も誘発します。アリマキはストロー状の口吻で植物の汁液を吸い、その中のアミノ酸やビタミンはアリマキの体内でほとんど消化されますが、糖分はほとんどそのままの形で甘露として排泄されます。それをもらおうとアリマキ周辺には様々なアリが集まってきます。アリだけでなく、無防備なアリマキを食べようとテントウムシなど多くの天敵類も集まってきますが、アリはそれらの天敵類を追っ払ってしまいます。それはあたかもアリがアリマキを飼育している牧場のような状態であることから、「アリマキ（蟻牧）」といわれています。

なんの武器も無いアリマキですが唯一の武器と言えるのはその増殖力でしょう。かれらの多くは単為生殖でどんどん数を増やし、ある密度以上になり餌が不足しそうになると翅の生えた成虫が現れ、新しいエサ場へと移動していきます。また時期に応じて有性生殖になり卵を産むなど、季節に対する順応性も発達しています。

